

# HB通信

編集・発行 /  
一般社団法人  
ひょうご部落解放・人権研究所



〒 650-0003 神戸市中央区山本通 4-22-25 兵庫人権会館 2 階  
TEL : 078-252-8280 FAX : 078-252-8281  
e-mail : blrhgy@extra.ocn.ne.jp URL : http://blrhgy.org/



所長の諏訪山だより

## 猫ハ窃盗ノ性アリ

普段、国語辞典を引くのは、知らない言葉に出会った際にその意味を調べたり、手書きで文章を書いていて、ある言葉が漢字でどう書くのか確かめるときなどで、意味も漢字もわかっている言葉を国語辞典でわざわざ引くことはない。

先日、日本で初めての50音順で引く本格的な国語辞典である大槻文彦の『言海』（1889～91年刊で、現在、ちくま文庫で復刻版が刊行されている）を読んでいると、猫の項がつぎのように書かれていた。「人家ニ畜フ小キ獣、人ノ知ル所ナリ、溫柔ニシテ馴シ易ク、又能ク鼠ヲ捕フレバ畜フ、然レドモ、窃盗ノ性アリ、形、虎ニ似テ、二尺ニ足ラズ、性、睡リヲ好ミ、寒ヲ畏ル、毛色、白、黒、黄、駸等種種ナリ、其睛、朝ハ円ク、次第ニ縮ミテ、正午ハ針ノ如ク、午後復タ次第ニ広ガリテ、晩ハ再ビ玉ノ如シ、陰処ニテハ常ニ円シ」。国語辞典で猫の語釈を読むのは初めてである。しかし、誰もが知っている猫をここまで詳しく説明する必要があるのかと思い、手元の国語辞典で猫を調べてみた。

『明鏡国語辞典』では、「足裏に肉球が発達し、音を立てずに歩く」、小学館の『日本国語大辞典』では、「ひげ（触毛）は暗所の活動に役立ち、瞳孔は明暗に応じて開閉する」といった特徴にまでふれる詳細な語釈がある一方で、『角川国語辞典』のように、「ねこ科のほにゅう動物。皮は三味線の胴張りに使う。愛がん用・ねずみ駆除用」と簡単な記述のものもある。どうもこの二通りに分かれるようだ。ちなみに、猫をどういう動物であるのか知らない人がいたら、『角川国語辞典』の語釈では猫を理解できないであろう。

なお、芥川龍之介は「猫」という随筆で、『言海』の猫の語釈を紹介して、「成程猫は膳の上の刺身を盗んだりするのに違ひはない。が、これをしも「窃盗ノ性アリ」と云ふならば、犬は風俗壊乱の性あり、燕は家宅侵入の性あり、蛇は脅迫の性あり、蝶は浮浪の性あり、鮫は殺人の性ありと云つても差支へない道理であらう。按ずるに「言海」の著者大槻文彦先生は少なくとも鳥獣魚貝に対する誹毀の性を具へた老学者である」（岩波・芥川龍之介全集、第6巻）と書いており、なかなか面白い。この随筆が関係するのかわからないが、『言海』を増補した『大言海』（1932～35年）では、「窃盗ノ性アリ」の部分のみ削除された。

寅年にあたり、猫について書いた次第。本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

所長 石元清英

はじめてみよう！

## 部落問題学習、考え方・実践のヒント (その9)

当研究所では「これからの部落問題」学習プログラム作成研究会を組織し研究を重ね、2017年3月に解放出版社より『はじめてみよう！これからの部落問題学習』（2,000円＋税）を刊行しました。うれしいことにご好評をいただき、2020年8月、2度目の増刷となりました。当欄では『はじめてみよう！』掲載の16のコラムを順次掲載し、部落問題の考え方のヒント、学習実践のヒントをご提供していきます。

### ▶ 『「どこに部落があるの？」との質問にどう答えるか』

／坂本研二（兵庫県内小学校教員、兵庫県教職員組合・人権教育推進専門委員）

地元の小・中学校人権同和教育研修会で、参加されていた行政職の方が、会場の教職員に次のように問われました。

「部落ってどこにあるの？と、子どもから聞かれました。興味本位なら、それは教えられないことだと返答しました。」

「行政職の立場で、人権教育に関わってきたので、それなりに答えられたのだと思います。けれども一般のみなさんが、子どもさんに尋ねられたらどうでしょうか？」

「先生は、生徒たちに教えたことが家庭で、どのように伝わっているのかを、考えたことがありますか？」

この子どもさんがいる中学校では、特別に部落問題学習をしたり、「立場宣言」をしたりはしていません。教育課程に位置づけられた、日本全国どこの小学校（6年）でも中学校（1・2年）でも行われている社会科・歴史学習で、子どもたちが何気なく感じている疑問です。「どこに部落があるの？」は。

この疑問に、学校現場が慎重になり過ぎるあまり、「部落問題学習そのものをしない」という声さえ聞きます。特別に部落問題学習をせずとも、子どもたちはそのことを知り、疑問をもつのです。ある意味、自然なことです。不自然なわたしたち教員の反応が、「聞いてはいけないこと＝よくないこと」にしてしまっているのでは、とも考えられます。

本来なら、同和教育によって「地域に誇り」をもつ子どもたちを育てることで、また地域との確かなつながりによる「立場宣言」などで、堂々と「ここが部落である」と子どもたちの疑問に答えるべきです。

しかし、解放学級の閉鎖、学校の同和教育の衰退により、保護者・地域と話し合う機会、つまりは地域とのつながりが切れてしまっている学校が多いように聞きます。

この現状で、子どもたちの疑問にどう答えるべきでしょうか。また、校区に部落のない学校でも同様に、慎重に答えてほしいです。

そこで次のように答えてはどうでしょうか。

- ・「どこに部落があるんですか」という質問がよくあります。また、うちに帰ってから、おうちの人に聞こうとする人がいてもおかしくないですね。
- ・どこかを教えることは、そこに住んでいる人たちの個人情報大切にしないことになるから、知りたいというだけでは教えられません。
- ・その情報によって、いまなお差別に苦しむ人たちがさらに苦しめられたり、差別が繰り返されたりすることもあるからです。
- ・その差別を一緒になくしていこうというときは、どこかを知ったほうがいいこともあります。差別をなくすために、一緒に取り組んでくれるとうれしいです。
- ・おうちの人に聞こうという場合も同じように考えてほしいです。差別をなくすために、取り組みたいという気持ちがあることを、まず自分に問いかけ、そのことをきちんとおうちの人に告げてからにしてほしいです。

学習の状況、また子どもたちや地域の実態に応じて、それぞれの教員また学校で、毅然と子どもたちに答えることが大切です。それによって、「知ろうとする＝差別をなくそうとする」子どもたちを育てていきましょう。



## 『田辺聖子 十八歳の日の記録』

田辺聖子著、文藝春秋、2021年12月、1,760円(税込)

8月の終戦記念日に比べ12月の開戦記念日は影が薄い。しかし去年は、対米英宣戦布告80周年ということで、太平洋戦争、日中戦争について各所で言及されたため、いろいろと考えるよい機会となった。そこで戦争についての本を紹介しようと旧刊新刊を漁るなかで、昨年12月に刊行された『田辺聖子 十八歳の日の記録』に行き当たり、これを紹介することにした。この本は大阪出身の小説家・田辺聖子（1928～2019）の終戦前後の日記を収めたものだ。

田辺は生前マスコミへの露出も多く、NHKの連続テレビ小説「芋たこなんきん」（2006～2007）の主人公（藤山直美が演じた）のモデルにもなっている。若い人には、世界各地で好評を得たアニメ映画「ジョゼと虎と魚たち」（2020年公開、日本と韓国で実写映画化もされている）の原作者というほうが分かりやすいかもしれない。多作で知られ、小説、エッセイ、評論、古典の翻案・翻訳など幅広く活躍した。なかでもエッセイはいろいろな媒体で発表されているので、小説は読んでいなくともエッセイはどこかで読んだことがあるという人は多いのではなかろうか。かくゆう私もエッセイしか読んでいない。

田辺のエッセイには「カモカのおっちゃん」という人物がよく出てくる。この人は田辺の夫の川野純夫のことだ。田辺は1966年、川野と結婚して神戸の諏訪山の西洋館で10年ほど暮らした。私どもの研究所が所在する兵庫人権会館のすぐ近くである。その後、伊丹に引越し、亡くなるまで住んだ。田辺聖子と言えば大阪のイメージが強いと思うが兵庫ゆかりの作家でもある。

戦時中や終戦前後（1945年8月前後）の日記については、著名人から一般人のものまで様々なものが出版されてきた。そのなかでも作家の日記はとりわけ面白いと思う。政治家や官僚の日記のように国の動向が分かるような重要な史料というわけではないが、人間の様々な姿が活写された面白いものが多くある。そのなかで最も有名なものとしては永井荷風（1879～1959）の「断腸亭日乗」（1917～1959年までの日記）が挙げられよう。兵庫ゆかりの作家でいうと、山田風太郎（現養父市出身、1922～2001）の『戦中派不戦日記』（角川文庫と講談社文庫で読める）が有名だ。

本書所収の日記は田辺の死後発見された。1945年4月1日から樟蔭女子専門学校（現大阪樟蔭女子大学）卒業直後の1947年3月10日まで、勤労働員の日々、学友との関係、大阪大空襲や父の死、日常の細々としたこと、自分の未来や文学のことなどを綴っている。

終戦当時、田辺はまだ社会経験の乏しい市井の学生でしかなく、日記には未熟で視野が狭く偏見に満ちた記述もある。それと同時に、作家らしいすどい観察力や洞察力を感じせる記述も散見される（例えば空襲関連の記事など）。また、田辺は軍国主義が大いに流行るなかで成長した世代なので、明治生まれの自由人である荷風とは異なり、特攻隊を賛美したり、ヒトラーの死を惜しんだり、米国大統領を罵ったりと軍国少女らしい言葉を書き付けている。そういったことも含めて戦時下のインテリ軍国少女のリアルな日常が窺え、興味深い。

本書では日記本文の他に、姪の田辺美奈が日記を発見した経緯を書いた文章、「田辺聖子 年譜」、日記関連の地図や写真、梯久美子による「解説」などを収める。梯久美子は大変力量のあるノンフィクション作家で、本書の「解説」も簡潔で優れた内容となっている。田辺の評伝としてこれだけでも一読の価値がある。（ka）



## ▶ひょうご部落解放・人権研究所の新講座のご案内

(一社) ひょうご部落解放・人権研究所では2022年度、新たな講座を開講いたします。みなさまのご参加をお待ちしております。詳細は研究所までお問い合わせください。

|| 誰ひとり取り残さない社会をめざして ||

### 『ひょうご人権総合講座』

部落問題をはじめとするさまざまな人権課題について学び、人権社会に資するリーダー養成を目的としています。

日程：2022年8月23日（火）～2022年12月20日（火）《実施日数18日》

場所：兵庫県立のじぎく会館

定員：約40人

受講料：176,000円（税込み）

募集期間：2022年4月1日（金）～7月29日（金）

講義やグループワーク、ディスカッション、フィールドワークなど多様な学習方式で学びます。

パンフレットはこちら→



### ■ 現職教員対象連続講座

### 『人権教育実践講座一学びなおす部落差別』

ひとりでも多くの教員が部落問題学習に取り組めるように、部落問題を体系的に学び、教育実践に活用することができる連続講座を開講します。

開催日：《学びなおしⅠ》2022年8月8日（月）・9日（火）・27日（土）

《学びなおしⅡ》2022年10月15日（土）・22日（土）・11月19日（土）

場所：《学びなおしⅠ》兵庫県民会館／《学びなおしⅡ》兵庫県立のじぎく会館

定員：約50人

講習費：1コマ2,200円／全11コマ24,200円（税込み）

→全講義お申し込みの場合は22,000円（税込み）\ 2,200円オトクです/

募集期間：2022年5月2日（月）～7月15日（金）

チラシはこちら→



《ひょうご部落解放・人権研究所 第4回人権セミナー》

### 「同和对策事業から平等を考える」

講師：柴原浩嗣さん（大阪府人権協会事務局長）

日時：2022年2月5日（土）14:00～16:00

参加方法：①会場参加【兵庫県立のじぎく会館ふれあいルーム】（定員40人）②Zoom配信（定員90人）

ネットから申込みできます→



## 事務局から

- 年明け早々1歳の誕生日を迎える孫娘たち。まもなく、ハ～モニ～（ハルモニ）なんて、呼んでくれるようになるんだろうな。この子たちの未来を少しでも明るいものにしたい、と思う。（K）
- 感染者数も減ってきたので、先月久々に実家に行き両親に会いました。しかしまた感染者が増加しており、お正月の帰省は微妙な感じに。いつまで続くのでしょうか……（ka）
- 10月の衆院選。投票が初めての大学生に不在者投票の仕方や選挙情報が掲載されているサイトを紹介した。友達とわいわいと見て、みんなで投票に行ったらいい。「若者の投票率が…」と言うけれど情報が届いてないからかも。選挙権のない人のことも次回には伝えよう（H）
- おいしいパン屋さんを発見。西神南駅近くにある『野の舎（ののや）』さんです。パン・ド・ロデヴがめっちゃくちゃ私ごのみです♡ハード系好きな方はぜひ。（ひ）